

愛知県感染症情報

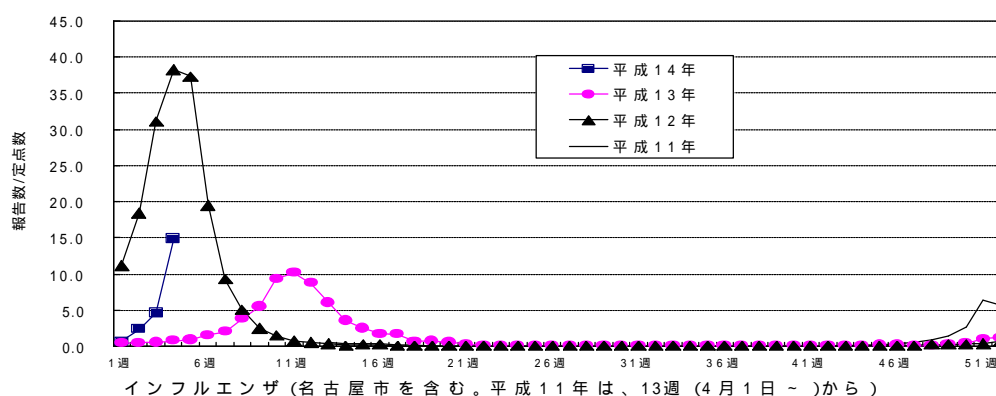
平成 14 年第 4 週（1 月第 4 週）

（コメント）

インフルエンザは急増していますので注意してください。愛知県内にインフルエンザ警報が出ています（1月29日）。インフルエンザの流行予測については、衛生研究所のホームページ

（<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>）もご覧ください。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び感染性胃腸炎は、引き続き流行中ですので引き続き注意してください。



（定点の先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
 - ・ インフルエンザ 21 人 ほとんど A 型。13 歳男 B 型。3 歳男 インフル A・B クイック* で A、B ともに陽性（B が強い）例あり。ワクチン 2 回接種でも 6 人罹患。
（一宮市 あさのこどもクリニック）
インフル A・B クイック*：A 型及び B 型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。
 - ・ マイコプラズマ肺炎 12 歳男。インフルエンザ A 型 8 歳男（インフルエンザ A・B クイック生研）
（一宮市 後藤小児科）
 - ・ 病原性大腸菌感染者 O1 2 歳女、8 歳女、10 歳女、O6 36 歳女、O126 2 歳女。急性胃腸炎が非常に多くなっております。然しながらその多くはインフルエンザの様に感じております。インフルエンザに関しましては迅速テストを中心に行っておりますが

インフルエンザ迅速テストそのものの精度に問題がある様に思われますし、迅速テストにて(-)でもHI法(赤血球凝集抑制反応)ではインフルエンザB陽性者が多く出ております。検査のデータそのものと致しましてはインフルエンザ2例のみとなっておりますが、症状・所見より感染性腸炎扱いといたしましたが、多くはインフルエンザと考えております。HI法では、診断のスピードという点で遅れるため、本来その診断価値としてはHI法による診断が一番正しいと分かっているにもかかわらずそのみに頼ることが出来ないのが現状です。

(尾西市 城後小児科)

- ・ 小学校高学年を中心にB型インフルエンザ流行中。
(津島市 田中こどもクリニック)
- ・ インフルA 6人、B 22人。ロタ 2人
(犬山市 武内医院)
- ・ 各幼稚園、保育園、小学校でB型インフルエンザ多発しています。A・BクイックにてB(+)、タミフル*にほとんど反応する例が多いが、しない例もあります。西春の保育園、岩倉の一つの幼稚園でA型の流行あります。A型の流行している園では同時にAB両方に感染している人も数人あります。その他、水痘も多発しています。

(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

タミフル* : A・B型インフルエンザ治療薬

- ・ 再び嘔吐を伴う感染性胃腸炎が増加してきました。インフルエンザは1名のみ(1歳女、ワクチン未接種)で、流行にはいたっておりません。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ インフルエンザ様症状中A型8人B型2人でした。
(春日町 丹羽医院)
- ・ B型インフルエンザ急増している。
(新川町 三輪医院)
- ・ B型インフルエンザ 12歳男2名
(師勝町 田中クリニック)

● 尾張東部地区

- ・ 溶連菌感染症、マイコプラズマ感染症、今週も多く見られ、流行が続いています。水痘散発。A型インフルエンザ、成人、中学生で見られるようになりました。いずれもタミフル著効です。(今後

、学童にも流行してくるものと思われます。)

(尾張旭市 佐伯小児科医院)

- ・ インフルエンザ (A型12名、B型10名)が増え始めました。1名 (B型7歳男)はワクチン2回接種済みです。溶連菌感染症も多く見られます。

(瀬戸市 津田こどもクリニック)

- ・ A型インフルエンザ流行しはじめました (150件)、某小学校1クラス13人発症しています。他には水痘がまた多くみられます。

(春日井市 朝宮こどもクリニック)

- ・ 今週も感染性胃腸炎が多くみられました。

(春日井市 かちがわ北病院)

- ・ インフルエンザが増加しました。30例中Aは23例、Bは6例、A、Bともに陽性1例でした。A、Bともに陽性例はワクチンも2回接種されている例です。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- ・ インフルエンザAもBも同じ様に流行している (1日2~3人程度)。伝染性紅斑小流行

(小牧市 小牧市民病院)

- ・ 中学生のインフルエンザが流行。当院ではA型が主です。ロタ陽性腸炎が増えました。

(東海市 小児科ハヤカワ医院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌O18 1歳女2名。A型インフルエンザ14名 (4か月男、1歳女、2歳男・2歳女2名、5歳男2名、5歳女、6歳女2名、6歳男2名、10歳男、13歳男) B型インフルエンザ7名 (5歳男、10歳男、11歳男、12歳男、13歳男、30~39歳男女)

(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)

- ・ カンピロバクター 7歳女。手足口病が流行

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ インフル1人はワクチン済

(豊田市 わかぞの東洋クリニック)

- ・ インフルエンザ3歳男 (インフルA・BクイックA、Bとも陽性) 3歳男インフルエンザワクチン2回接種、2回目1月15日、発症19日。4歳女インフルエンザAワクチン2回接種。7歳女インフルエンザはB型。成人 (女性) インフルエンザは子どもから又は子どもと同時発症。

(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)

- ・ ロタウイルス (2歳女3人、1歳男、1歳女、9ヶ月男、10ヶ月男、11ヶ月男、3歳男)。
(岡崎市 深田小児科)
- ・ 5ヶ月男ロタ (散発中)。7歳女インフルエンザB型あり (大門地区)、他はA型ばかりです。
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ インフルエンザB型 (5歳男、7歳女、10歳男、11歳女)。インフルエンザAとB (5歳女、7歳男)。カンピロバクター4歳女 (双子)。病原性大腸菌 O18 VT (-) 3歳女。マイコプラズマ 4歳男。エルシニア (腸内細菌の一種) 3歳女。
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ 4歳男サルモネラ O4。3歳男病原性大腸菌 O1、O18、4歳女病原性大腸菌 O114。インフルエンザワクチン接種歴あり 1歳、5歳、4歳2人女 (2回)。B型インフルエンザ 10歳、12歳
A型B型インフルエンザ 6歳、5歳男
(岡崎市 水野病院水野小児科)
- ・ インフルエンザ 21人はA型 17人、B型 3人、AとB型 1人
(幸田町 とみた小児科)
- ・ インフルエンザ急増。この週は 17名で全例A型
(岡崎市 粟屋医院)
- ・ インフルエンザA型インフル A・B クイック A (+) 7歳、41歳、18歳・16歳男 (兄弟) 7歳、22歳、17歳女、17歳女 (ワクチン済み)。インフルエンザB型インフル A・B クイック B (+) 13歳・10歳男 (兄弟) と 40歳・13歳女 (親子)。インフルエンザ (未検査) 33歳女
(岡崎市 永坂内科医院)
- ・ インフルエンザ流行中。麻疹 2名有り。
(刈谷市 まついこどもクリニック)
- ・ インフルエンザ増加 (小学生ではB型、幼児ではA型が目立つ)
ロタウイルス胃腸炎も増加
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ インフルエンザAが多い。インフルエンザA、B両方陽性になった 30歳女 1名あり
(知立市 宮谷こどもクリニック)
- ・ 今週に入りインフルエンザが目立ってきました。インフル A・B

クイック陽性 A 9 名、 B 7 名（うち A 型で予防接種済み 1 名、他は未接種）

（西尾市 山岸クリニック）

- ・ インフル A・B クイック陽性 A 7 名、 B 1 名（うち A 型で予防接種済み 1 名）

（西尾市 やすい小児科）

- ・ インフルエンザが増えてきました。インフル A・B クイック A（+）5 人。B（+）6 人。感染性胃腸炎もまだ多いです。

（三好町 三好町民病院）

- ・ インフルエンザ A 1 人。B 2 人。

（足助町 足助病院）

- 東三河地区

- ・ インフル A・B クイック陽性 A 型 8 名 B 型 2 名。インフルエンザ流行中です。ほとんど A 型です。

（豊橋市 こどもの国大谷小児科）

- ・ 1 歳 3 ヶ月女麻疹あり。（未接種）インフルエンザは流行のピークか？ワクチン接種児はほとんど B 型です。

（豊橋市 野村小児科）

- ・ 保育園、小学校を中心にインフルエンザ A が流行しています。

（キャピリア*FluA・B A（+））

（豊橋市 あずまだこどもクリニック）

キャピリア*FluA・B：A・B 型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キットの一種。

- ・ 豊川地域は今週になってインフルエンザが流行しはじめました。

A、B 型両方あります。

（豊川市 ささき小児科）

- ・ 今年は早くからインフルエンザ B が検出されます。

（蒲郡市 蒲郡市民病院）

- ・ 乳幼児のインフルエンザはほとんど両親からの感染です。キャピリアにて確認例では、A 型 11 例、B 型 2 例、混合感染はありませんでした。

（蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院）

（1～3 類感染症の発生状況）

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名。

- ・ 津島保健所から報告の 50 歳女。1/20 発病、1/22 初診、1/24 診定。菌型は、O157 VT2（+）。ニュージーランド渡航歴あり。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)
報告はありません。

病原体検出情報

平成 14 年 1 月 30 日現在、県衛生研究所に搬入された 48 検体から、A ソ連型インフルエンザウイルス 11 株、A 香港型インフルエンザウイルス 8 株、B 型インフルエンザウイルス 6 株が分離されており、3 種類のウイルスによる混合流行と考えられます。また集団発生については豊橋市からは A 香港型が、豊田市からは B 型が分離されています。抗原性は A ソ連型と A 香港型はワクチン株と類似していましたが、B 型はワクチン株とは異なるビクトリアタイプでした。B 型インフルエンザウイルスは過去大きな流行を起こしたことがなく、今後同タイプによる流行が拡大するかについては不明です。

インフルエンザ

発生動向調査	12 月	1 月	合計
患者数	13	35	48
Flu.A (H1)		11	11
Flu.A (H3)	1	7	8
Flu. B	1	5	6

集団発生	12 月	1 月	合計
患者数		18	18
Flu.A (H1)			0
Flu.A (H3)		5	5
Flu. B		7	7

第 1・2 週合併号 (13 年 12 月 31 日 ~ 14 年 1 月 13 日) の 4 類感染症の全国状況

インフルエンザは第 2 週になって、流行開始の指標と考えられる定点当たり 1.0 を超えた。九州地方で定点当たり報告数の高い県が多くなっている。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎は、過去 5 年間の同時期と比較して定点当たり報告数がやや多くなっている。感染性胃腸炎の定点当たり報告数が多いのは宮崎県 (17.9)、広島県 (15.5)、大分県 (14.8)、福井県 (14.8)、宮城県 (14.5) などである。流行性耳下腺炎は 2001 年第 19 週より、ここ 10 年間で最大の定点当たり報告数が持続しており、2002 年も年初より報告数が多く、とくに石川県 (定点当たり 8.5)、長野県 (7.4)、沖縄県 (6.9)、山形県 (6.0)、富山県 (5.9)、愛媛県 (5.2)、宮崎県 (5.1) など報告が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

